



高台からの眺め

稲用城跡は、長久町稲用の西端にあります。標高69mの独立した山で、頂上には二つの高台があります。東側の高台からは稲用の田台やそれを囲む山々、はるかには三瓶山を望むことができます。(左写真)

鎌倉時代の武将伊東祐時の二男祐盛は、稲用郷三百町歩(現在の稲用、延里、土江、東用田、西用田)を所領とし、姓を「稲用」と改め、この城山を居城として数代80有余年の間、統括したとされています。後に九州の日向国(現在の宮崎県)に移った後も代々稲用を姓とし、その子孫は日南市に残るといわれています。また、江戸時代には浜田藩の出城として松平一族が居城したとも伝えられています。

稲用に城があったことはあまり知られていませんが、広く知ってもらい、次代に伝えていきたいと地元の皆さんが石碑の建設や階段の整備などに取り組まれています。

◆ 稲用城跡への行き方 ◆

国道9号「枯木橋」交差点(押しボタン信号)から約1.2km。市道長久大坪線に入り踏切を通過し右折、土江神社の角を左折し、南進。「稲用城山遺跡」の石碑が目印です。その右手から急な坂と階段を約200段。ゆっくり登ると約10分で山頂です。JR大田市駅から車で約10分。

詳しくは、

長久まちづくりセンター
(☎0854-82-5571)まで



稲用城跡

表紙

あの頃 ～仁万駅周辺(昭和39年)～

表紙と右の写真は、旧仁摩町が町制施行10周年を迎えた昭和39年に仁万駅から仁万大橋に向かって撮影されたものです。

仁万・宅野・大国の農業協同組合の合併(昭和38年)や、全町有線放送事業の開始(昭和38年)、仁万・宅野・馬路の漁業協同組合の合併(昭和39年)など、町の姿がどんどん変化していった頃です。



現在



表紙の後方には、仁万中学校(後に仁摩中学校)の旧校舎が見られますが、昭和43年に新築の校舎へ移転しました。当時の男子中学生は下駄を履いていたようです。

現在の写真(左)には、旧校舎のあった位置より少し上に、建築中の新しい屋体の姿も見えます。(竣工式:平成22年2月25日)

昔の面影を残しつつ、仁摩町の風景は少しずつ変わっていきます。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行 / 大田市役所総務部地域政策課 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail:o-tiiki@iwamigin.jp http://www.city.ohda.lg.jp/

“おおた”の定住サイト「どがどが」 http://www.teiju-ohda.jp/

どがどが 検索